

いじめ越え若松で映画制作

Heart ♥ Beat



北九州市若松区のハートビートで行われた「DANNY」の撮影。この店にはフェルナンデスさん(手前右)が通っていた(10月8日撮影)

北九州市若松区出身の俳優、フェルナンデス直行さん(37)が、古里で初の主演映画を撮影した。少年時代に出自をからかわれ、いじめを受けた記憶が残る地元を愛して物語の舞台に選んだ。俳優という選択肢を見つけた、つらかった状況を抜け出したフェルナンデスさんは故郷を盛り上げようと、来年の完成に向けて張り切っている。

(小川哲雄)

出身の俳優 フェルナンデス直行さん



「映画を通して若松の魅力を発信したい」と語るフェルナンデスさん(7月26日撮影)

「自分を肯定 生きる道ある」

フェルナンデスさんは、日本人の父とコロンビア人の母のもと同国で生まれた。9歳で来日し、小学5年の頃から父の出身地である若松で暮らし始めた。小中学校では、「外国人」と容姿などをからかわれ、集団で無視をされたこともあった。

居心地が悪くなった学校にはだんだん行かなくなり、北九州市内の映画館に入り浸った。様々な作品の俳優たちを見るうち、ハーフの容姿は、この世界なら武器になるのではと思うようになった。同時にこうも考えた。「活躍して、いじめた人を見返したい」

中学の途中から福岡市内の俳優養成所で演技を学んだ。高校を中退して20歳で

上京。現在は東京を拠点に活動する。フェルナンデスさんは「『俳優になる』という人生の新しい選択肢を見つけたことで、つらいことから抜け出した。好きなことなので、地道に続けることができた」と振り返る。

これまで、脇役としてドラマ、映画に数多く出演した。オーディションの最終選考に残ったことはあるが、主役の経験はない。「見た目は外国人、心は日本人」とどっちつかずな印象を与えたかもしれないと悩んだこともある。そこで、「ならば、(主演作を)自分で作ろう」と思い立った。

映画制作を決意し、多くの企業をまわって協賛金をかき集めた。若松でも、知人のつてが頼りとなった。

若い頃は面倒と思っていた「義理人情」に助けられた。現在は「活気がなくなった若松を映画を通して盛り上げたい」と意気込む。

制作中の映画「DANNY(ダニー)」は、テレビドラマなども手がける角田恭弥監督が脚本を担当し、フェルナンデスさんの体験を反映した内容に仕上げた。東京に住むコロンビア人と日本人を親に持つダ

ニーのもとに、殺人未遂容疑で指名手配中の若い男が転がり込む。脅されて若松に逃亡しながら、道中でダニーと男が互いの過去を語り合う姿を通し、自分らしさを肯定して他者と認め合うことの重要性を描く。

劇中には、若松の風物詩「火まつり」や郷土芸能の「五平太はやし」も登場する。7月下旬の火まつりにはフェルナンデスさんも参加した。撮影には、北九州フィルム・コミッションなど市内80以上の団体が協力。オーディションで合格した17人も、主人公の家を訪れる警察官や店員の役などで出演する。

10月8日、若戸大橋そばで約40年営業するピリヤード喫茶「ハートビート」で撮影が行われた。同店の経営者、白浜寛隆さん(52)は、昔なじみのフェルナンデスさんからの依頼で協力を快諾した。

白浜さんは、フェルナンデスさんが養成所時代、カウンターでオーディションの履歴書を書いていたり、映画祭で受賞できるような作品ができれば」と期待する。

フェルナンデスさんも「悩みを抱える子どもたちに、自分が正しいと思える選択肢は必ずあるということと映画を通じて伝えたい。自分を肯定して生きていける道はある」と力を込める。

若松区や東京で行われた撮影は、10月中に終了。来年2月頃までに完成させ、国内外の主な映画祭に出品後、劇場公開を目指す。問い合わせは、メールで制作委員会(dannyproducti@team@gmail.com)へ。